

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 2 月 3 日

所属	人間社会学部	職名	専任講師	氏名	藤井 紘司
研究課題	離島の観光危機管理をめぐるコミュニティ分析				
研究キーワード	離島、観光危機管理、地域コミュニティ、平準化の原理	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	11.住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は、観光依存度を高めてきた小規模島しょ部の地域コミュニティを対象とし、「平準化の原理」の側面から観光危機管理の方策を検討することを目的とする。少人口や遠隔性等の脆弱性を抱える離島は、伝統的に、不平等のベクトルを平等へと引き戻す「平準化の原理」といえる生活規範を特徴としてきた。こうした離島において、災害・事故等の発生による危機や風評被害、観光公害等の観光客の過多／過少によって被る観光のインパクトは、地域社会内で局地化する傾向にあり、「平準化の原理」を大きく揺るがす契機となっている。これらの状況下において、離島コミュニティは観光による地域社会内のリスクや負荷の偏在性に対し、いかなる方策を講じてきたのであろうか。本研究では、「平準化の原理」の側面から離島コミュニティによる観光危機を回避／緩和する方策や生活知を解明し、持続可能な観光に資する観光危機管理の島しょモデルを提示することを目標とする。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水俣の踊るネコの〈命〉学：狂猫と神猫とのあわいに」、藤井紘司、単著、『BIOSTORY：人と自然の新しい物語』、37 巻、96-107 頁、2022 年 6 月</li> <li>・「CSR 型エシカル・ツーリズムの探求：沖縄県八重山郡の事例から」、藤井紘司、単著、『日本観光研究学会全国大会学術論文集』、37 巻、147-152 頁、2022 年 12 月</li> </ul> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花と旅人」、単著、大島レポート：離島フィールドワーク 02、23 頁、2023 年 1 月</li> <li>・「問いを立てる（ゼミ紹介）」、藤井紘司、単著、きずな、41 号、印刷中、2023 年 2 月</li> <li>・「放棄される自然」、藤井紘司、単著、環境社会学事典、印刷中、2023 年 3 月</li> </ul> <p>【学会発表等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本のローカルな民衆思想と「自然の権利」訴訟」、自然の権利科研：第 14 回研究会、2022 年 8 月、オンライン</li> <li>・「土地所有からみる隆起サンゴ礁島の環境史」、日本村落研究学会：第 70 回（2022 年度）大会、2022 年 11 月、明治大学</li> <li>・「CSR 型エシカル・ツーリズムの探求：沖縄県八重山郡の事例から」、日本観光研究学会：第 37 回全国大会、2022 年 12 月、金沢大学</li> </ul>					

3. 主な経費

- ・関連書籍の購入など

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

- ・若手研究:2021年度～2025年度、代表、課題名「離島の観光危機管理をめぐるコミュニティ分析」(21K17977)

(本文は2ページ以内にまとめること)